

導入事例

コンプライアンス

ガバナンス

安全運転管理

日本光電工業株式会社 様

医用電子機器の開発・製造・販売事業

医療機関に営業・サービスで社用車をフル活用！

『スリーゼロ』+『アルコールチェック代行サービス』を活用して法令順守！



日本光電工業株式会社

<https://www.nihonkohden.co.jp/index.html>

会社概要

医用電子機器および関連したシステム・消耗品類の開発・製造・販売・保守サービス・コンサルテーションを主な事業としています。救急現場、検査、診断、治療、リハビリ……。臨床医療のそれぞれの場面で、最先端の技術と製品によってサポートするのが日本光電の使命です。

プラン

：プレミアムプラン

導入時期

：2023年9月

車両用途

：全国の医療機関への訪問に使用（直行直帰含む）

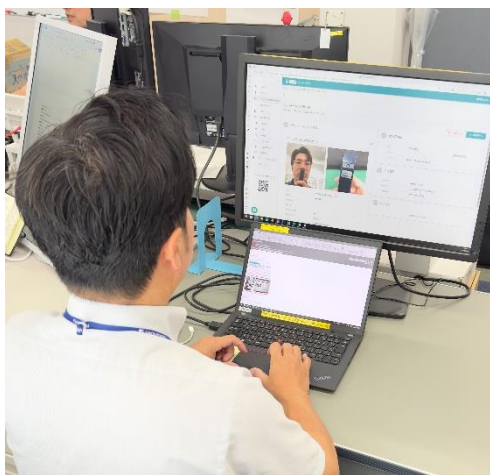
管理車両

：リース車両

導入前に抱えていた課題について

事業所ごとに紙運用を実施。管理や運用は、現場任せになっていた。

『スリーゼロ』導入前は、全事業所のアルコールチェックの管理や運用は紙を使用しており、また現場に任せておりました。紙での運用のため、一元的に管理できていない状況であり、また早朝深夜のリアルタイムでのアルコールチェックの確認ができないという課題も抱えておりました。



今後の期待

勤怠管理まで含めた一元管理で管理業務の更なる効率化を期待

負荷軽減・ガバナンス強化・コンプライアンスの徹底につながるため、アルコールチェック状況・運転日誌入力・承認状況・免許証確認状況を含めた管理者のための画面の作成を早急に作成をお願いします。また、運転者の業務負荷軽減のため、走行距離の自動入力やアルコールチェック忘れのアラートが必須になります。

勤怠管理システムとの連携により、出勤・休暇の状況がシステム上に表示されることを期待します。また、安全運転の観点から、急発進・急ブレーキなどの運転評価機能が追加されると安全管理につながります。更なる機能追加を期待しております。

導入の決め手

簡単でシンプルな操作性、ランニングコストがマッチ

必要なサービス機能／アルコールチェック代行サービスは勿論、現場営業が簡単に使える使い勝手、ランニングコストが一番の決め手でした。アルコールチェッカーの対応機種が多いことと、スマートフォンのカメラを使ってOCR機能で読み取れるなど直感的な操作性はよかったですと感じております。加えて運転日報も管理できることがポイントでした。

また、『スリーゼロ』のセキュリティ対策が、弊社の基準をクリアしたことも選定の要因でした。

導入後の対応について

安全運転の意識付けとともに社内説明会を実施。

当社では、2023年12月の検知器義務化に関する社内徹底にあわせ、『スリーゼロ』の導入説明も行う事で社内への定着化を図りました。また、普段から安全運転の意識を高めるため講習も定期的実施しています。アルコールチェックの代行として外部のコールセンターも活用しているため早朝深夜、休日、直行直帰の対応もスムーズに実施できています。